

憧れの職業と現実

自分のキャリア設計への指針

スポーツをやっている小学生に将来なりたい職業を尋ねると、そのままプロ選手と答える小学生は多くいると思われれます。それが、中学、高校と続けていくうちに、夢と現実のギャップを感じる事が段々と増えていくのではないかと推察します。誰もがプロになれるわけではない、その現実が目の前に現れます。プロとまでいなくても、ずっと続けていてもレギュラーにならない等、心が折れてしまうこともあるかも知れません。日本講演新聞8月17日号に、『わくわくは可能性の宝箱!』という記事がありました。認定NPO法人キーパーソン21代表理事、朝山あつこさんの記事です。

皆さん、毎日のお仕事や生活でわくわくしていませんか？  
わくわくしている人、していない人、それぞれだと思います。

「わくわく」を感じないのは、「こうしなければならぬ」「あれもやらねばならぬ」みたいに「ねばならない」で動いている時です。こういう状態を私は「ねばねば」と呼んでいます。

私はこれまでの経験から、この「ねばねば」を「わくわく」に変えることができると、人は主体的に考

え、能動的になっていくことを実感しています。

中学校で野球部に所属していた3人の生徒がいました。私たちがその中学校で実施したプログラムの中で、彼らは3人とも自分がわくわくするものを「野球」と答えました。

その生徒たちに「野球の何にわくわくするの(好きなもの)?」と理由を聞くと

A君：作戦や戦略を立てるのが好き

B君：チームで何かを達成するために、自分もその役に立っていることがうれしくてしょうがない

C君：素振りや筋トレをやりながら、日々自分の小さな成長を感じ取れることが楽しい

同じ「野球が好き」でも、その理由はそれぞれ違うわけで、大人がそんな子どもの内面にあるわくわくする理由、それを頑張れる理由をキャッチすると書いてありました。

中学生とは異なり、高校生になれば、それを自分の力でキャッチすることができると思います。自分は今やっていることの何が好きなのか。そういう自分の内面を見つめることで、直接その道のプロ職業に就かなくとも、自分の適性を活かせる道を考える一つの糸口になると思います。何にわくわくできるのか、そんな視点で自分のキャリア設計を考えてみる

といいかと思えます。何かにわくわくしながら10年後の自分の具体的なビジョンを描いてみる、そういう思考が何かに生きる時が来ると思えます。評定平均

が〇〇だからこの指定校推薦で…という決め方がありますが、高校卒業後の進路は人生の方向を大きく定めます。大切に、大切に、決めてください。

言葉の重み

3年生は先週末が模擬面接申込書のメットでした。10月1日(木)のLHRから、計画的に模擬面接が始まっていく予定です。これまで模擬面接をして感じたことの一つに、生徒の「言葉の重み」があります。本当に身につけていることと、取って付けたと思われることは伝わってきます。同じ言葉を語っても、人によって重みが違います。それが腑に落ちる生徒と、本当に実行できるのか首をかしげたいような生徒。何が違うのでしょうか。

言葉の重み…。それは、3年生なら18年をかけて紡いできた人間性、そこから滲み出る違いなのです。嫌なことはやらない、そういう18年を過ごした人と、誰も見ていなくてもコツコツ尽くして18年を過ごした人、同じであろうはずがありません。地道に奉仕を重ねてきた人は、自信をもって面接に臨んでください。誠実に対応すれば大丈夫です。



進学や就職の面接試験のためだけでなく、長い人生を豊かなものにするためにも、今の時期に心の方向性を見つめてみることは価値があります。学校での学びを通して、自分の志を身につけ出すことを意識して生活してみてください。

人から認められて褒められる存在、市柏卒業生がそうなることを心より願っています。進路指導部職員一同、みなさんを応援しています。